

「洋学 ―日蘭の出会いと知の共創の歴史―」

Yogaku: The History of the Dutch-Japanese Encounter and Co-creation of Knowledge

江戸時代、中国から学んだ儒学、漢学が学問の中心であったなかで、日本の古い歴史や文化を学ぶ国学と並んで、おもにオランダを通じて西洋のことを学んだことを洋学と呼びます。

昨年設立30周年を迎えた洋学史学会は『洋学史研究事典』を刊行しました。本講演会はそれを記念して開催します。

新しい外来のモノ、考え方、価値観と出会ったとき、必要なものを受け入れ、不要なものは受け入れず、自分自身も変わり、そして自分なりのものを発信していく。そのような姿勢は、これからの課題となるでしょう。洋学史がその良き先例となると考え、日蘭の出会いと知の共創の歴史をご紹介します。



挨拶

ペーター・ファン・デル・フリート (駐日オランダ王国大使)

八百啓介 (洋学史学会会長、北九州市立大学教授)

「ティツィングが入手した日本の書物」―洋学とは何か―

松方冬子 (東京大学教授)

「金唐革」と「衣服」―洋学に影響を与えた「モノ」―

イサベル・田中・ファンダーレン (東京大学共同研究員)

「ワイン」―国産葡萄酒までの長い助走―

野澤丈二 (帝京大学准教授)

「幕末のオランダ留学」―シモン・フィッセリングと明治日本の夜明け―

大久保健晴 (慶應義塾大学教授)

「種痘」―天然痘予防をめぐる知の共創―

青木歳幸 (佐賀大学特命教授)

2022年4月16日 (土) 15:00 ~ 17:00 オンライン

参加をご希望される方は **4月14日 (木) までに** 事前登録をお願いいたします。

URL: <https://nlinjp.com/yogaku-koenkai>